

済生会和歌山病院院長の川上 守です。私は 2019/2020 年の国際腰椎学会の会長を務めました。昨年 4 月にメルボルンで開催予定であった学術集会がコロナ禍で中止になり、会長講演ができないまま 1 年が経過しました。今回、ウェブで学会が開催され、時間を短縮して会長講演をさせていただきました。

1974 年に設立された国際腰椎学会は、解剖学、生物学、生理学、生化学、薬理学、生体力学などの基礎医学、疫学、放射線医学などの世界中の専門家をはじめ、薬物療法、理学療法、代替療法、手術療法などの治療に関係するトップレベルの医療従事者が参集する学会です。この学会は東洋医学や西洋医学、内科や外科関係なく腰痛をはじめとする愁訴をもつ患者さんを集学的に研究治療するために発展してきました。この考えは、和歌山が産んだ医聖 華岡青洲の教えに通じるところがあります。またこの学会は、教授のみではなく、学閥も関係なく、ただの在野の研究者でも発表することができ、その発表を真摯に受け入れてくれる学会です。和歌山が産んだもう一人の偉人、南方熊楠は学閥に関係なく、在野で研究し、多くの論文を世に残しています。1993 年に米国留学中にこの学会に初めて参加し、その後参加し続けることで、和歌山が産んだ二人の偉人の哲学を踏襲した学会であると感じるようになりました。今回の会長講演では国際腰椎学会 (ISSLS) と和歌山の歴史に刻まれた二人の偉人の包括的な哲学について話をさせていただきました。拙い和歌山弁の英語はお許してください。

私がこれまで学んできたことは患者さんやご家族を中心にした医療・介護体系がこれからの地域医療には欠かせないという点です。その体系の中の一角を済生会和歌山病院が担うことができるように職員一同努力する所存です。今後とも済生会和歌山病院へのご支援をよろしくお願いいたします。

川上 守

令和 3 年 6 月 8 日 済生会和歌山病院にて